令和７年度　第２回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「今後、各学校が自走していくためには」令和７年９月２９日（月）１４:00～１５:30

事務局説明　第１回小中一貫教育懇談会のまとめ及び今後の取組案について

①小中一貫教育懇談会の今年度の目標の確認

小中一貫教育及び幼小中連携教育について、これから各学校が主体的に取組を進めていく（自走していく）ために、どのような仕組みを整えればよいか。

②第１回小中一貫教育懇談会のまとめ

「今後、各学校が自走していくためには」（一部抜粋）

- 他の学校がどんなことをしているかという情報を見られると、担当者は考えやすいと思う。
- 取組のよさや効果を職員の交流や話し合いによって共有していくことが大切である。
- Ｃグループは足並みを揃えることは難しい部分はあるが、地域の特徴をいかしながら小学校での取組が中学校にもつながる工夫をして、できるところから連携を進めていく。

③事務局の今後の取組案（詳細）について

●幼小中の連携及び小中一貫教育担当者の手引き（案）の説明
- 小中連携教育と小中一貫教育について
- 本市の取組について
- 担当者の動きについて
- 広報活動について
- オンライン相談会について
- 参考になる資料の紹介

●「幼小中連携の日実施記録」の改訂
- Ａ、Ｂグループ用とＣグループ用の様式

●事例紹介方法について
- 好事例一覧の作成

●各種助言・支援
- 担当者向けのオンライン相談会の実施
- 「つなぐ」ダイジェスト版のＨＰ掲載

意見交換のまとめ　～事務局の今後の取組案と本年度の目標について～

【事務局の今後の取組案（詳細）について】

〇幼小中の連携及び小中一貫教育担当者の手引き（案）について
- 小中連携教育、小中一貫教育の効果は文部科学省の過去のデータよりも、熊本市の最近の調査結果から提示した方がよい。
- 先生方が概要を掴みやすいように、１枚にまとめた概要版があるとよい。
- 今年から「架け橋期のカリキュラム作り」に取り組み始めているので、そういった幼小の連携についての項目や情報を増やす必要がある。

〇「幼小中連携の日実施記録の改訂」および「事例紹介方法」について
- 「担当者の手引き」にある「取組に関する表」と「実施記録の取組の内容」、「好事例一覧の項目」をリンクさせると見やすくなる。

【本年度の目標について】

〇まずは先生たち同士が仲良くなって、お互いのこどもたちのことをよく知ることが幼小中の連携や小中一貫教育を推進していくことにつながる。また、取組を進める上で校長先生の力はとても大きいと感じる。

〇小中一貫教育を充実させていくためには、行政と学校現場が両輪となって取り組んでいく必要がある。行政側に熊本市はこれを目指しているんだということを発信しながら、ある程度システム面でフォローしていただけると、先生方のモチベーションや意識も変わってくると思う。

〇広報用のホームページはあるが、そこはアクセスした人しか見ないので、「熊本市はこんなこどもたちを育てるために、こんなことに力を入れていく」というようなことを発信する際には工夫が必要だと思った。小中一貫教育だより「つなぐ」は今後も継続して発行してほしい。例えば「すぐーる」を活用して保護者に発信していただけると、「何か来ているな」と思って必ず見ると思う。実際の取組の状況を見ることで、関心を持つ保護者も増えると思う。